

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務・・・評価 [A **B** C D]

◇担当課 [教育総務課]

(1) 教育行政の推進と教育環境の整備・充実・・・評価 [A **B** C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

平成21年度の教育行政の推進と教育環境の整備・充実については、以下のとおり基本的な施策ごとにおおむね実施できた。

学校施設の耐震・改修の推進、学校施設の整備による安全・安心については、確実な執行ができた。特に、学校施設の整備については、国からの経済対策臨時交付金の活用により、予定年度を前倒して進めることができた。

また、広報誌「教育委員会便り（つやま市教委かわら版）」の発行により広報活動に取り組んだ。

今後の課題としては、学校施設の耐震・改修及び整備を計画的に実行していくとともに、地域住民の要望や意向を施策に反映させていく手法について検討し実行する必要がある。

① 教育行政の推進・・・評価 [A **B** C D]

【評価の視点】

教育行政を推進していくために、市長部局の教育委員会関係課をはじめ関係部局並びに関係団体との連携を図りながら、教育行政の執行に取り組んだ。地域住民の要望や意向を施策に反映させていくことについては、計画策定の際にパブリックコメントの手法を導入したほか、教育行政に対する意見を市民からその都度いただいております、行政運営に活かしている。

平成21年度点検・評価については、事業実施終了後の平成22年度に行うこととした。

② 広報・公聴活動の充実・・・評価 [A **B** C D]

【評価の視点】

市内全ての小・中学校を教育委員及び担当職員で学校訪問し、要望や意向についても聴取した。

広報誌「教育委員会だより（つやま市教委かわら版）」を年3回、学期毎に発行し、各施設における教育活動の状況や教育委員会の施策の周知を行った。

③ 学校施設の耐震・改修の推進・・・評価 [**A** B C D]

【評価の視点】

平成21年5月に策定した耐震化推進の基本方針に基づき、施設の耐震化並びに老朽化した大規模改修を計画的に実施しており、平成21年度において4校（西小学校、高田小学校、中正小学校、秀実小学校）の工事を完了した。

④ 学校施設の整備による安全・安心の確保・・・評価 [A **B** C D]

【評価の視点】

集中管理方式による校務員の点検並びに各学校からの要望の実地調査を行い、確認さ

れた不良箇所（４０８件）を修繕した。併せて、国からの経済対策臨時交付金を活用して、放送設備・消防設備などの施設整備を計画的に進めている。

⑤ 学校図書館の整備・充実

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

市内の小中学校全てに学校図書司書（非常勤嘱託員）または、図書整理員（臨時職員）を配置した。学校図書司書配置校は１５校。図書整理員配置校は２１校。

メーリングリストを活用し、市立図書館との図書情報の共有化や情報交換を行った。

⑥ 学校情報環境の整備充実

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

平成２５年度での全教職員への指導用パソコンの配備に向け、平成２１年度に市内の小中学校に９７台のパソコンを配備した。

また、平成２１年４月に「学校電子情報セキュリティポリシー」を策定し、学校で所有する個人情報の管理、漏洩防止に努めた。

◇担当課 [学校教育課]

(2) 学校教育の充実

・・・評価 [A] B C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

平成２１年度学校教育施策（８つの柱）に基づき、概ね計画的に実施できた。平成２０年度末には、『学力向上構想懇談会』から「学校の教育力の向上」「家庭の教育力の向上」「地域の教育力の向上」という３つの視点からの中間報告がなされ、関係課と連携し『げんぼプロジェクト』（※１）として、それぞれの提言に係る施策・事業への取組を始めることができた。また、平成２２年２月には最終報告を受け、平成２２年度以降にさらに学力向上に向けた取組を推進することとしている。

今後の課題としては、次の４点を重点課題として挙げ、課題克服に向けた取組を継続、充実していく。

- ①児童生徒の学力向上に向けたさらなる教員の授業改善と指導力向上
- ②豊かな体験活動の推進及び郷土学習の充実
- ③児童生徒の規範意識の醸成及び不登校対策
- ④特別支援教育の推進と充実

※１「げんぼプロジェクト」

津山市教育委員会では、平成２０年度から『学力向上構想懇談会』において、「学校の教育力の向上」「家庭の教育力の向上」「地域の教育力の向上」という３つの視点から本市の実態を把握したうえで、子どもの健やかな成長のための教育のあり方について検討を重ねてきた。平成２２年２月には最終提言が報告され、学校・家庭・地域、それぞれの教育力向上の

ための提案と方策が示された。

「げんぼプロジェクト」は、これらの提言を実現するために展開する様々な施策の総称で、関係課が連携してそれぞれの提言に係る施策・事業に取り組んでいる。

① 学力向上へ向けての授業改善の推進と教育内容の充実 . . . 評価 [A] B C D]

【評価の視点】

- ・リーディングスクール（小1校、中1校）の育成や、市指定の研究支援事業等で授業改善の取組が進むとともに、校内研究公開推進事業により、研究成果をお互いに還元できる体制が整った。
- ・授業改善に向けた取組の見直し、改善ができてきた成果により、平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果は、全体的に昨年度と比べて全国平均との差が縮まった。
- ・市学校教育研究センターの「活性化の方針」が示され、授業研究を中心とした研究活動が活発になりつつある。

② 心の教育の充実と体験活動を重視した教育の推進 . . . 評価 [A B] C D]

【評価の視点】

- ・新しい道徳の副読本を全小中学校に設置、活用により、道徳の授業の指導内容の充実に取り組んだ。
- ・「あいさつ運動」「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」などの啓発を進めた。
- ・地域に根ざした学習、地域とつながる学習をねらいとした「ふるさと学習推進事業」を全校で実施した。また、「つやまっ子デビュー14（中2職場体験）」も全中学校で3日間実施できた。
- ・新規採用教職員が津山洋学資料館など地元の教育関係施設について研修する機会を設定し指導力の向上に努めた。

③ 生徒指導の充実 . . . 評価 [A] B C D]

【評価の視点】

- ・不登校は小中学校全体として13名の減、暴力行為は小中学校全体で12件の減であった。また、いじめの認知件数はやや増加しているが、97%は解消の方向にあるという結果が出ている。
- ・「小中学校生徒指導担当者会」（全体会4回、小学校部会3回、中学校部会3回）の開催及び、津山警察署・健全育成センターと連携した「中学校生徒指導担当者会（9回）」の定例化による情報交換と情報共有により、各校の組織体制の整備および、生徒指導主事の資質能力の向上に努めることができた。
- ・「学校問題相談窓口」を設置し、青少年健全育成センターと連携した学校支援体制の整備ができた。
- ・スクールカウンセラー、スクールサポーター等の相談員の配置並びにスクールサポートチーム事業の活用（支援会議12回、相談員による学校や関係機関への訪問相談100件以上）により、いじめや不登校問題等への対応や取組が進んだ。

- ・津山警察署、健全育成センターと連携した「中学校生徒指導担当者会」により、生徒の問題行動の早期発見、早期解決、未然防止等、幅広いフィールドでの行動連携ができつつある。〈年間9回の実施〉
- ・発達障害が起因すると思われる生徒指導上の問題については、医療機関と連携した「教育支援カンファレンス」による特性に応じた個々の支援体制を整備することができた。〈年間14回の実施〉

④ 体力づくりの推進と健康教育の充実及び安全確保 ……評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・全国体力・運動習慣等調査の全校実施を行い、児童生徒の実態把握に努めた。
- ・毎月第4週を「チャレンジ・ハッピーデー」として位置づけ、家庭での生活について見直しを行うよう、各学校での啓発活動をすすめた。(5月、11月は全市的取組の実施)
- ・栄養教諭・学校栄養職員等が市内全小中学校に出向き、指導を行い、食に関する教育の充実を図った。〈各校6～7回の出前授業〉
- ・「つやま学校園安心安全・お知らせメールシステム」も安定した運用ができている。
(平成22年4月1日現在3,728件加入) 保護者がより安心できるよう、県警「ももくん安全安心メール」と連携した迅速な情報発信に努めた。

⑤ 特別支援教育の推進と充実 ……評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・様々な教育ニーズに対応するため、巡回相談員に西小学校通級指導教室の職員を加えた体制で巡回相談を行い、これらの活用により校内支援体制の充実や各校の特別支援教育への助言や支援に努めた。(H19:14回, H20:34回, H21:75回)
- ・特別支援教育リーダー養成講座や特別支援コーディネーター研修会等、指導力向上のための研修が実施できた。
- ・西小学校、津山西中学校通級指導教室では、通常学級に在籍する支援の必要な多くの児童生徒を指導するとともに、教育相談の中心的役割を果たすことができた。

⑥ 学校の活性化と開かれた学校づくりの推進 ……評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・平成20年度より実施している学校評価が、学校経営に反映できるよう実施方法の検証に取り組んだ。
- ・「ふるさと学習推進事業」において、地域の個人・団体から延べ170回の指導を受け、地域に開かれた学校づくりに活かした。
- ・市教育委員会のホームページ内に開設している全小中学校の紹介ページを定期的に更新し、常に新しい情報を市民に発信するよう努めた。

⑦ 人権教育の推進 ……評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・虐待に関する家庭環境児童近況連絡票をもとに変化が見られた児童生徒については詳

細な情報をつかむために、学校や関係機関と連絡を取り合い、情報の共有化や今後の対応等について適切迅速に行うように努めた。また、必要に応じてケース会議を行った。

- ・DVについては、学校と関係機関の連携、相談機関を紹介するなどして、被害の拡大防止に努めた。
- ・「いじめについて考える週間」の取組として、津山市立図書館と連携し、市内4つの図書館内に特設コーナーを設け、ブックリストを作成し、小中学校へ配付することができた。

⑧ 幼稚園における保育活動の充実と小学校との連携 ……評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・幼児期における規範意識の芽生えを培うための指導のあり方を研究するため、平成21・22年度道徳教育実践研究事業（文部科学省指定）を受け、鶴山幼稚園で実践研究をすすめた。
- ・幼稚園と小学校とのなめらかな接続を進めるために、幼小の職員が共に参加する研修会を実施し、それぞれから見た子供とのかかわり方について研修を深めた。（年間5回）

◇担当課 [学校給食課]

(3) 学校給食の充実と食育の推進

……評価 [A] **[B]** C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

平成21年4月の学校給食法の改正により、学校給食を活用した食に関する積極的な指導が求められることとなった。また、学習指導要領の改訂により、小学校学習指導要領の総則に「学校における食育の推進に関する指導」が新たに規定された。これらのことを受け、今後の学校給食・食育に関する施策を効果的に進めていくために、「津山市学校給食・食育将来計画」を策定し、2年ごとに評価を行いながら適正な進行管理を行っていくこととした。

学校給食に関しては、自校調理を行っていた阿波小学校の給食を加茂給食センターからの提供に変更し、給食業務の効率化を図った。また、食物アレルギーのある児童生徒へのきめ細やかな対応や地場産食材の使用推進に努めた。地場産食材の安定的な生産体制の確立や納入価格調整などについては、関係部署との継続した協議が必要である。

食育指導に関しては、すべての学校において「食に関する指導の全体計画」の策定が終了し、学校栄養職員等により給食指導、教諭と連携した授業など計画的な食育指導がスタートした。継続して訪問指導を行うことで、児童生徒とのかかわりを深め、給食や食に関する興味関心を高めていかなければならない。

①よりよい学校給食の実施

……評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・一部の単独調理場を除き、食物アレルギーのある児童生徒へ、除去食による対応を行った。

- ・津山地域で採れた「COCORO 米」の使用や「津山産野菜の日」の設定など、地場産食材の積極的な使用に努めた。
- ・毎月の献立に行事食や郷土料理、伝統料理などを取り入れ、食文化の学習機会づくりに努めた。
- ・食材の安定的な生産体制や市場との価格差解消などの課題について、関係部署との継続的な話し合いを行っていく。
- ・給食の調理くずや食べ残しを堆肥化など再資源化する試験研究を行い、成果物を学校に配付して環境教育への活用を図った。
- ・学校給食費の未納解消に向け、継続して学校と連携・協力した取組を進めている。

② 積極的な食育の推進

・・・評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・計画的に食育指導を進め、給食指導やPTA対象の試食会、教諭と連携した授業などの訪問指導を行った（21年度：249回、1校平均6.8回）。
- ・学校栄養教諭2名・学校栄養職員6名・市の栄養士1名により食育指導を行っているが、1人が複数の受持ち校で指導を行っている状況にある。学校と連携して食育指導の年間計画を作成し、計画的に指導する体制整備を進めていく。
- ・食育フェアなどのイベントを開催し、学校給食や食育についての啓発に努めた。
- ・戸島学校食育センターを活用して親子料理教室や施設見学を行い、食育や衛生管理について啓発した。

◇担当課【健全育成課】

(4) 青少年健全育成

・・・評価 [A] **[B]** C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

平成20年度の「津山で育って良かった津山っ子育成アピール」に基づく「ふるさと津山を愛する親子育成支援事業」を実施し、地域と学校との連携を図った。また、新たに生徒指導との情報交換や保護司との情報交換、ひきこもり支援など関係機関との連携強化を図った。引き続き、青少年健全育成のため、地域、学校、行政、教育委員会が一体となり、健全育成活動充実に向け取り組んでいかなければならない。

① 関係機関との連携強化

・・・評価 **[A]** B C D]

【評価の視点】

- ・これまでの取組に加え、中学校生徒指導との連携充実を行い、地域大規模店舗との意見交換、保護司との情報交換など連携の充実を図ってきた。

② 不審者への対応

・・・評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・不審者出没の抑制について、十分な不審者対策の巡回指導を行うため、継続して各地域の見守り隊と連携・協力を図り抑制強化に努めた。また、不審者情報についても、

育成指導委員に情報提供を行い、周辺地域の見回りを行うなど周知を図った。

③ 相談機能の充実 …… 評価 [A] ☒ B C D]

【評価の視点】

- ・電話相談、訪問相談を行い、相談者へ対応として、関係機関との連携を図り、充実するよう取り組んだ。

④ 津山市教育相談センター鶴山塾の機能強化 …… 評価 [☒ A] B C D]

【評価の視点】

- ・教育相談活動と支援の充実、鶴山塾開塾25周年の記念事業、関係諸機関とのサポート会議の充実を目標とした。相談員の資質向上のために研修を充実させ、訪問支援も含め個人に適した支援の充実が図れた。鶴山塾開塾25周年の記念事業を通して、鶴山塾の果たす役割や課題が明確になった。また、サポート会議も充実し、具体的支援へとつながった。

⑤ ふるさと津山を愛する親子育成支援事業の実施 …… 評価 [A] ☒ B C D]

【評価の視点】

- ・2月に全体事業として「詩のボクシングと講演会」を実施した。また、中学校単位事業として、6事業を行った。これまで以上に、地域と子どもたちと連帯感のとれる事業を行った。地域とのつながりを増やすことで子どもたちを健全に育てる取組として効果があったが、2中学校区について事業を実施することができなかった。平成22年度においても、引き続き取り組み、関係機関団体、家庭や地域とのより一層の連携を図る。

◇担当課 [文化財課]

(5) 文化財の保存・活用 …… 評価 [☒ A] B C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

専門職が1名減になり、その後任に事務職が配置されたが、職員相互の協力により大過なく事業を終了することができた。特に、緊急雇用対策事業など例年にない大事業にも取り組み、大きな成果を上げることができた。今後の課題としては、指定文化財の保存と管理、特に草刈などの日常管理が不十分なので改善に努めることが必要である。

① 史跡の保存整備及び公有化の推進 …… 評価 [☒ A] B C D]

【評価の視点】

史跡津山城跡の保存整備事業および史跡美作国分寺跡の公有化事業など着実に事業が進められた。また、「津山城だより」14号の刊行をした。

② 指定文化財の保存修理・保存管理 …… 評価 [☒ A] B C D]

【評価の視点】

国指定重要文化財中山神社本殿の屋根葺替工事(3ヶ年事業3年目)が無事終了した。

あわせて、修理工事報告書も刊行した。また、国指定重要文化財「田熊の舞台」の壁の補修工事も実施することができた。

③ 文化財の調査研究と文化財指定の推進

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

院庄構城跡、衆楽園などの発掘調査を実施し、各種遺跡の構造解明に取り組めた。また、清水家住宅が国の登録文化財に、宗永寺五輪塔、本源寺本堂・庫裏の2件が新たに市の重要文化財に指定された。

④ 文化財収蔵・展示施設の運営・管理

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

文化財センター、加茂町歴史民俗資料館など職員常駐施設の運営は比較的円滑に進められたが、久米・勝北の歴史民俗資料館については職員不在で日常の管理運営に支障が生じている。緊急雇用対策事業で、考古民俗資料の整理ができたことは特筆に値する。

4. 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に補助執行させる事務

・・・評価 [A] B C D]

◇担当課 [スポーツ課]

(1) スポーツ・武道の振興

・・・評価 [A] B C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

第4次総合計画Ⅱ-3-2 人づくりと文化の振興のうち、スポーツ・武道の振興について、一人ひとりが、いつでも、どこでも気軽にスポーツ・武道に親しむことができるよう、生涯スポーツ活動を推進し、スポーツ振興都市宣言の理念の実現を目指している。具体的には国、県のスポーツ振興計画を参考にした、「津山市スポーツ振興基本計画（HAVE FUN つやま スポーツライフ）しあわせ大国 つやまスポーツライフの実現のために」を策定し計画的振興を計っており、年度目標を達成している。将来成人週1回のスポーツ実施率を50%に高めることが目標である。

① スポーツ振興基本計画の実践

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

スポーツ振興審議会に計画の実施状況を報告し、意見を求めた。地域元気事業は7地区のスポーツ団体が取り組んでおり、地域でスポーツを核とした横断的グループづくりが始まっている。また、スポーツ課ホームページをリニューアルし、教室やイベントの情報を提供している。教室の雰囲気が伝わる開催風景を参加者の了解を得て公開するなど、情報提供やプログラム・施設サービスについて計画推進をほぼ達成している。

② スポーツ団体の育成と活性化

・・・評価 ☒A ☐B ☐C ☐D

【評価の視点】

体育協会構成種目団体の統一を推進し、一体感の醸成を促している。大会・イベントを委託・支援し、組織の活性化を促している。

新しい種目団体の組織化にも取り組み、協会加盟団体の増加、またスポーツ少年団団員の募集や、種目団体の育成支援に努め、目標をほぼクリアしている。

③ スポーツプログラムの提供

・・・評価 ☒A ☐B ☐C ☐D

【評価の視点】

体育協会・スポーツ少年団・スポーツ振興財団と協力し、教室イベントを予定通り開設運営ができた。参加者についてもばらつきがあるが、目標を達成している。

Jリーグ公式戦を1度誘致し3,800人の市民を集め、トップ技術の啓発もできた。第38回つやま市民スポーツ祭では協会役員をはじめ、各種団体ボランティアや、美作大学、津山東高等学校などの学生ボランティアの支援を得て開催できた。

④ スポーツ施設の充実

・・・評価 ☐A ☒B ☐C ☐D

【評価の視点】

体育施設予約システムの活用を進め、利用制度も統一し、利便性を向上させた。アクセス件数も常にトップ10に入っておりスポーツ人口の増加に貢献している。

安全安心な施設運営の取組として、3年計画で野球場ベンチの改修に取り組みもした。

⑤ 競技力の向上

・・・評価 ☒A ☐B ☐C ☐D

【評価の視点】

全国大会出場者に激励金の交付並びにメディアに広報し、競技者への関心と競技への啓発を行った。全国大会で活躍した団体は、市民への情報提供に努め、市民の関心を高めるよう努めている。

つやまスポーツ賞などで選手、コーチ、役員の顕彰も実施し、啓発に努めてほぼ目標を達成している。

⑥ 指導者の養成

・・・評価 ☒A ☐B ☐C ☐D

【評価の視点】

トップアスリート（ファジアーノ・シーガルズ・ベル）の講習会や、学識経験者、上級指導者による研修会など積極的に開催を支援し、指導者のレベルアップに役立てている。

60名の体育指導委員は地域のスポーツ活動のコーディネートを行い、こけないからだ講座や、ニコニコ体力づくり教室、ニュースポーツの支援や紹介などと同時に研修や指導者の掘り起こしなどに取り組み目標を達成している。

⑦ 健康づくりとの連携

・・・評価 ☒A ☐B ☐C ☐D

【評価の視点】

庁内関係組織との連携を図り、健康づくりのためこけない体づくり体操・ニコニコ

体力トレーニング・老人クラブスポーツ祭・母子寡婦福祉運動会・障害者スポーツ大会等の行事を進めた。

⑧ 武道の振興

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

平成20年度設置された武道振興構想懇談会の報告に沿って、武道の振興に取り組み、弓道場の新設を具体化した。

◇担当課 [こども企画課・こども課]

(2) 幼児（幼稚園）教育

・・・評価 [A] B C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

- ・ 管理・運営面についてはこども保健部こども課が担当、指導については、教育委員会学校教育課が行っている。
- ・ 平成20年4月の機構改革により現在の体制となり、以降、各種事務分担等の調整を随時行い、遅滞や遺漏のないよう事務執行に努めている。
- ・ こども課・学校教育課両課で各幼稚園への園訪問、園長会議・主任会議（それぞれ学期毎に開催）を開催している。また、園長・主任が主催する園長会や主任会へも毎回出席し、幼稚園現場での課題解決に努めている。
- ・ 適正規模の教育集団形成と園運営や職員研修への影響、財政効率の観点から、適正規模・適正配置、預かり保育の実施、障害児等の特別支援の充実などを盛り込んだ公立幼稚園将来計画を策定した。今後、この計画に基づき、関係者と協議しながら、再編や施策の実施に向けた取組を進めていく必要がある。

① 生きる力の基礎を培う保育活動の充実

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

「遊び」を中心とした保育活動の中で、自然とのふれあいなどさまざまな体験活動により、社会性を育み、人間関係づくりや思いやり、価値観や感性、忍耐力など豊かな心と健康な体の育成に努めた。

② 地域の子育て支援センターとして開かれた幼稚園づくりの推進

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

- ・ 市内公立幼稚園14園全園で、幼稚園開放事業（「地域に開かれた園づくり」推進事業）に取り組み、未就園児を対象に園庭、施設を開放し、親子ともに友達づくり、情報交換の場としてなど、子育て支援に取り組んでいる。
- ・ また、随時子育て相談にも応じており地域の子育て支援センターの役割を果たすように努めている。

③ 今後の幼児教育における幼稚園のあり方についての検討・・・評価 [A **B** C D]

【評価の視点】

- ・ 平成20年度末津山市幼児教育検討委員会がまとめた「これからの津山市の幼児教育のあり方（答申）」を踏まえ、適正規模・適正配置、預かり保育の実施、障害児等の特別支援の充実などを盛り込んだ公立幼稚園将来計画を策定した。
- ・ 平成22年度以降、この計画に基づき、関係者と協議しながら、再編や施策の実施に向けた取組を進めていく必要がある。

◇担当課 [文化振興課]

(3) 文化の振興

・・・評価 [A **B** C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

芸術文化活動の振興については、ベースとなる継続事業を行いながら「第25回国民文化祭・おかやま2010」への取組も順調に進めることができた。また、国民文化祭の開催を視野に入れた津山文化センターの改修は、一部繰り越したものの緊急的な箇所を中心に工事、備品の取替えを行った。文化施設の管理運営については、利用者の増加を図るよう指定管理者の指導を行っており、経済状況の影響もあるがさらなる努力を求めている。本市の大規模事業である、新津山洋学資料館は平成22年3月に予定通り開館し、入館者の滑り出しも順調であるが、今後ともPRと利活用に努める必要がある。

① 芸術文化活動の推進

・・・評価 [A **B** C D]

【評価の視点】

市民の自主的な創作活動の支援と発表・鑑賞機会の提供を目的として、従来から行っている「西東三鬼賞」、「新春川柳大会」、「文化教室」、「勝北ミュージカル」、「文化センター自主事業」などの芸術文化事業は順調に開催された。また、本市の文化振興の基本的な考え方や施策の方向性を示す「津山市文化振興ビジョン」を策定した。

② 文化団体の支援と連携

・・・評価 [A **B** C D]

【評価の視点】

「国民文化祭・おかやま」の開催を契機に、津山市文化連盟の文化講演会や各文化団体による応援事業を開催し、文化団体の交流と文化活動の振興を図った。また、津山文化振興財団については、平成20年度に組織改革を行い活性化に努めており、昨年度は新たな自主企画事業に取り組むなど、芸術文化の鑑賞機会の提供に努力している。さらなる文化振興のためには、各文化団体、施設の連携と情報のネットワーク化を図る必要がある。

③ 国民文化祭の推進

・・・評価 [**A** B C D]

【評価の視点】

平成22年秋には「第25回国民文化祭・おかやま2010」が県内各地で開催され、

本市では①洋学シンポジウム②民謡・民舞の祭典③俳句会④写真展⑤茶道フェスティバル⑥中世山城の祭典の6事業が行われる。昨年度は事業別企画委員会を頻繁に開催し、本市開催事業の内容を検討した。あわせて、関連事業（盛り上げ事業）に取り組み、多くの参加者を得るとともに国文祭のPRに役立てた。また、祭典の期間中、中心商店街を会場に開催する市民参加型の「総合文化プロジェクト」の実行組織を立ち上げた。

④ 文化施設の効果的運営

・・・評価 [A B ☒ C D]

【評価の視点】

現在、津山文化センターなど5つの公立文化施設の管理運営には、指定管理者制度を導入しており、住民ニーズに対応したサービスの提供や効果的な施設運営、稼働率の向上につながるよう連携、指導を図っている。昨年度はベルフォーレ津山、津山文化センターとともに、新たな自主企画事業に取り組んだ結果、利用者が増加しているが、他の施設も含め今後も、安定した利用者の確保に向けた創意工夫が必要である。

⑤ 新津山洋学資料館の開館

・・・評価 [☒ A B C D]

【評価の視点】

平成18年度から事業着手した新津山洋学資料館は昨年5月に完成し、開館に向けた乾燥、くん蒸、環境調査（コンクリートのアルカリ度）などの作業は順調に進んだ。新館完成記念イベントとして「日蘭交流プラス・アンサンブル演奏会（10/24）」、「新館建物内見会（10/31～11/3）」などを開催し好評を得ており、また津山洋学をテーマにした歴史小説「フレイヘイドの風が吹く」も発刊された。当初の予定どおり平成22年3月19日にオープンし、当日あわせて、オランダライデン市にあるシーボルトハウスと友好提携館契約を締結した。今後は、観光と連携してPRに努めるとともに、郷土学習、生涯学習、津山洋学の発信拠点としての利活用を図る。

⑥ 津山郷土博物館の充実

・・・評価 [A ☒ B C D]

【評価の視点】

郷土資料の収集、調査、研究とあわせて、美術品展示コーナーの入れ替え、子どもたちを対象にした講座の開催により、利用者の増加につなげている。また、デジタルアーカイブによる「津山の古写真集」、市制施行80周年を記念した「津山城百聞録」を発刊し好評な売れ行きであった。

◇担当課【生涯学習課】

(4) 生涯学習・社会教育

評価 [A ☒ B C D]

【評価・評価理由・今後の課題】

知の循環型社会をめざして、生涯学習・社会教育を進めており、学校支援ボランティア制度

の推進、地域課題への取組強化、放課後子どもプランの推進、つやまっ子読書プランの推進、図書館サービスの向上など平成21年度の教育方針に沿い、一定の成果が上がった。しかしながら、生涯学習情報提供システムの整備等、次年度に対応すべき課題もある。今後は、特に子育て、家庭教育支援において、親の学び・育ちを支援する事業展開が必要であり、学校教育部門・健全育成部門と連携して重点的に取り組んでいきたい。

① 生涯学習活動の推進

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

- ・ 生涯学習情報を提供する情報紙「まなびい」（43,400部）の発行や公民館講座などを通して、市民やグループの生涯学習の支援を行った。
- ・ 生涯学習で学んだ成果を実際に活かすことのできる取組（津山市子どもまつりなど）も行った。
- ・ 津山市生涯学習推進懇談会を6回開催。また、津山市生涯学習推進本部会議や同幹事会を開催するなど、全庁的に生涯学習の推進に取り組み、第3次津山市生涯学習推進計画を策定した。
- ・ 市内新成人の中から実行委員を募集。9名の実行委員により、成人を祝う会を準備し、平成22年1月10日、岡山県津山総合体育館において開催し921名の出席を得た。
- ・ 一人ひとりが様々な問題を人権の視点から見つめその大切さに気づくよう関係機関と連携を図り、多様な学習機会を提供した。

○ひと・ふれあい講演会…3回（延べ参加者数950人）

○企業等への出前講座…15回（延べ参加者数802人）

○第61回人権週間児童・生徒ポスターの募集（応募総数4,335点）

② 公民館の整備

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

- ・ 津山婦人青年の家は、平成21年度大規模改修の後に県より譲渡を受け、平成22年4月1日に津山市中央公民館として活用することとなった。
- ・ 平成20年10月焼失した福南公民館は、平成21年8月24日に竣工。また加茂町公民館は、平成22年夏の開館に向けて改築工事中である。
- ・ 久米公民館については、整備検討委員会で、できるだけ早い時期に改築するとの結論を得た。
- ・ 既設公民館の修繕等の要望箇所については、順次計画的な対応を実施した。
- ・ 公民館運営審議会は、統合との結論を得て条例改正を行った。

③ 学社連携・融合（*2）の推進

・・・評価 [A] B C D]

【評価の視点】

- ・ 市内8中学校、6小学校に対して学校訪問、市内全小中学校にアンケートを実施、学校支援ボランティアの現状および学校側のニーズの把握に努めた。また、公民館長会議においても制度の広報を行った。ボランティアの活動の場の提供が課題である。

(3月1日現在: 1, 851人の登録)

- ・林田小学校・東小学校にて学校支援地域本部推進事業に取り組んだ。(林田小学校…平成20年12月スタート、東小学校…平成21年4月スタート、高野小学校…平成22年4月スタート予定)
- ・新規ボランティアへの育成を視野に入れた「大人の学校」を開設した。(鶴山中学校・向陽小学校)

※2 「学社連携・融合」

「学社連携」は、学校教育または社会教育のいずれか一方が主体となって、他方がその活動に協力すること。

「学社融合」は、学校教育と社会教育が、それぞれの役割分担を前提としたうえで、そこから一歩進んで、学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら一体となって取り組んでいこうとすること。

④ 地域課題への取組強化

・・・評価 [A] **[B]** C D]

【評価の視点】

- ・健康増進・介護予防・人権啓発などのリクエストを中心に、年間約85件のリクエスト大学を実施した。
- ・公民館を拠点とした地域づくり人材育成事業を通じて、住民の意欲を高めて、公民館等を住民と行政を結ぶ地域振興拠点として機能させることも今後の課題である。

⑤ 子育て・家庭教育支援や子ども読書活動、放課後子どもプランの推進

・・・評価 [**A**] B C D]

【評価の視点】

- ・第2次津山市子ども読書活動推進計画に基づいた事業展開を行った。さらに国より「子ども読書の街」の指定を受け、委託事業を活用した子ども読書活動の広報啓発、「つやまっ子読書プラン推進事業」(講演会等)などの各種事業の推進を行った。
- ・市立幼稚園・市内全小学校において、生活リズムの確立・規範意識や道徳心の向上・家庭学習の必要性和習慣づけに向けての講座等を実施した。また、親になる世代に向けての啓発として、成人式で講演会を実施した。さらに、幅広い世代に呼びかけるため、家庭教育啓発CMを作成し放映した。
- ・子ども会連合会に加盟している子ども会の育成者(保護者)を対象に、育成研修会を開催した。テントの設営・撤去作業、レクリエーション、野外調理の講習等と実践を行った。
- ・総合的な児童の放課後対策を図るため、平成20年度策定の放課後子どもプランに沿って、放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)、放課後子ども教室推進事業を進め、「放課後子どもプラン運営委員会」を開催した。「放課後子どもプランコーディネーター」に替わって、「放課後子ども支援員」を配置した。放課後児童クラブは2学区で新設し28学区31クラブとなった。また71人以上の大規模児童クラブについてはガイドラインにそって望ましい人数規模の児童クラブへの移行を促進した。放課後子ども教室は14教室が活動中である。

【評価の視点】

- ・利用者のプライバシー保護と迅速な貸出サービスを実現するため、全館ＩＣタグシステムを導入、本館には自動貸出機４台を設置しさらなる図書館サービスの向上に努めた。
- ・自動車文庫専用車両の買換えにより積載資料冊数が増加、新たな巡回ポイントの拡大を行った。引き続き幼稚園等への巡回を目指す。
- ・全館に子育て支援コーナーを新たに創設、子育て力の向上と親子で安らぎながらの読書推進を図った。
- ・勝北支所旧議場に資料倉庫を新設、所蔵資料の計画的配架を推進した。
- ・利用者ニーズに合うよう、ビジネス支援や他部署、他機関・他事業とのタイアップ事業などを通して市民に役立つ取組を実施している。